

明日を変えるのは私たち

山梨英和高等学校 2年 関 優里子

37400。2021年、全世界に存在する絶滅危惧種の数である。実際の数は、この数以上ともいわれている。世界の生物多様性が過去50年で68%喪失していることを知っている人はどのくらいいるだろうか。

私が住む山梨県は森林に加え田畑が多く、自然に恵まれた土地である。小さい頃から自然に多く触れてきた私は、小学生時代、バードウォッチングが趣味となった。双眼鏡を片手に様々な地へ出向いたことは、楽しい記憶として心に深く残っている。また、自由研究では、近隣を流れる川の水質調査を行った。pHを計測する調査に加え、水生生物による水質判定も行った。とても汚い水の指標となるザリガニなどは見つからず、きれいな水に棲むカワゲラなど、多くの水生生物が見つかり、まだ多様な生物が棲める環境であることに安堵した。

近年耳にすることが増えた環境問題。地球温暖化から始まり、海洋汚染、水質汚染、大気汚染に森林破壊。それに加え、ゴミの問題もある。失われるサンゴ礁や熱帯雨林のために私達ができることは一体何だろうか。

2015年9月、国連総会において、持続可能な世界にするための17の開発目標SDGsが採択された。そのうち、環境保全に関わる目標は4つある。しかし、それ以外の目標にも環境破壊は大きく関係していると考える。貧困問題では、原因は農地開発による森林伐採などがあり、飢餓に関しては、干ばつやバッタの大量発生など、地球規模の気候変動や生態系バランスの崩れが背景にある。

また、現在、猛威を奮っている感染症も、環境問題の一部であると言っても過言ではないだろう。例えば、永久凍土が挙げられる。永久凍土では約1000種類の微生物が確認されており、その多くの実態は不明である。それらの微生物が有害であるかどうかは定かではないが、中には人類にとって脅威となるようなウイルスが眠っているかもしれないのだ。その永久凍土が溶け出していることも忘れてはならないし、北極などの氷は温暖化によって面積が年々減少している。海面水位は上昇し、ホッキョクグマやアザラシは棲む場所を追われてしまう。

中学一年生の時、私の通う学校で実施しているJICA 研修でマレーシアを訪問し、サバ湿地でマングローブの植林体験をした。マングローブとは、桜や梅のような木の名称ではなく、淡水と海水が混ざり合う場所に育つ樹木の総称である。マングローブは、自ら塩分を濾過することが可能で、海水にさらされても枯れず、地表に根を張って育つ、というユニークな生態をしている。それが近年、木炭の材料としての利用、宅地や工業団地、エビの養殖場の開拓によって急激に失われている。マングローブは台風や津波の被害から守る防波堤のような役割を担うだけでなく、魚、カニ、エビ、猿や鳥などの生息地としても重要な役割を担っている。ウェットランドセンターで環境学習をしてからマングローブ林の中を歩いた時、たくさんの鳥の声が聞こえ、この美しい自然を育てているマングローブをこれ以上、絶対に減らしてはならないと強く思った。

今まで自分から少し遠いことのように感じていた環境問題。世の中が便利さに固執しすぎているのも原因の一つではないかと私は思う。現在の様々な問題の根底には、人間が自分たちの便利さや利益を優先した経済活動を進めてきたことがあるのではないだろうか。

私たちは、楽だから、という理由だけで安易にペットボトルやビニール袋を買ったりしてはいないだろうか。このくらいならいいよね、と、いつもと同じ日常生活を送っていないだろうか。その一つ一つの行為が、現在の地球環境を作ったことを、私たちは自覚しなければならない。そして、一人ひとりが行動に移していかなければならない。私たち若者には、この世界を変える力がある。